

令和5年4月号

春日部セントノア病院

〒344-0001  
埼玉県春日部市不動院野1112-1  
TEL048-760-1200  
FAX048-760-1201  
https://www.saintnoah-kasukabe.jp



温かな日差しに満開の桜



この一時よ、せめてゆっくり流れて欲しい...



2023/3/29

# お花見会

ご家族をお招きしてお花見会。  
青空の下、満開の桜を眺めながらゆったりとした時間をお過ごし頂きました。



お好みのお菓子を手に取って



おしるこもどうぞ。



ラジオ体操のあとは...



玉入れゲーム!



## ～目次～

- 病院短信
- 日常の一コマ
- いきいき看護・介護
- 相談室だより
- お花見会
- スタッフ紹介

- 渡辺 弘子
- 竹田 裕美
- 高橋 麻紀
- 江原 佳世子
- 院庭にて
- 青山 春

## 4月の予定

### ◇誕生日会

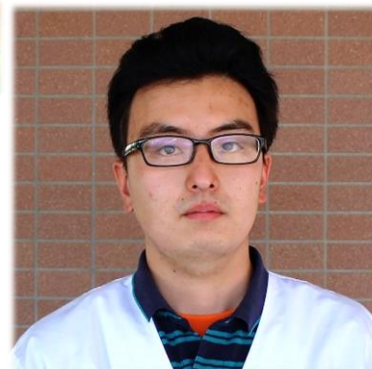
1病棟	4月 7日 (金)
2病棟	4月 10日 (月)
3病棟	4月 4日 (火)
各病棟デイルーム 14:00~	



## スタッフ紹介

栄養科  
あおやま はる  
青山 春

星座 さそり座  
得意なスポーツ 水泳  
趣味 食べ歩き



入社して約3ヶ月、ようやく自分の仕事内容を覚えてきました。先輩たちの手助けが少しずつ減ってきたのを実感して、気が楽になってきたところです。プライベートでは、友達と時間を合わせて、オンラインゲームを楽しんでいます。まだまだ全ての仕事を覚えている訳ではないので、先輩に教えてもらいつつ、これからも頑張っていきたいと思います。よろしくお願いします。





# 病院短信

『「その人らしく」を支援する』

2病棟 看護師長 渡辺 弘子

3月の気温が高まり、桜の開花が早まりました。病院の桜も満開となり、庭に出での散歩が日課となつています。桜を見ると、皆さん笑顔になつて癒されますよね。  
ノアSt.1eに毎月掲載されている「日常の一コマ」でも分かるように、患者さんには一人ひとり歩んできた過去があり、そして今があります。ですから、その個性は様々です。今回は2病棟の病棟スタッフの業務の中には「見守り担当」という役割があります。ほとんどの患者さんは日中デイルームで過ごされますので、見守り担当は一日中気を抜くことができません。大声を出して叫んでいる人、常に廊下を徘徊している人、歩けないのに立ち上がって歩き出そうとしている人、などなど。大声を出している患者さんには「どうしてほしい？」と優しく声をかけてそばに寄り添います。また、徘徊している患者さんには、常に所在を確認しつつ、障害物はないか、疲れていないか、そろそろ休憩を促そうか、など目配り気配りが欠かせません。歩き出そうとしている患者さんに「何がしたいの？」と尋ねますが、特に理由がない場合もあります。そんなときは隣に寄り添って、しばらく一緒に廊下を歩きます。それだけで気持ちが落ち着くようです。

患者さんが「トイレに行きたい」と言ったら、見守り担当は「誰か来てくださーい」とまわりのスタッフに声をかけて見守りを交代します。ステーション内で記録をしているナースが、手を止めてデイルームに出ることもあります。デイルームを見回すと、自分の思いを上手く伝えられない患者さんが「早く分かってよ」と言っているような気がします。みんな「自分のそばに来てよ」と訴えているようにも感じます。患者さんの行動の真のメッセージをくみ取り、その時々に対応を考えます。

「その人らしさ」とは何か。入院中の患者さんは自分の思いを上手く伝えることがだんだん難しくなつてきますが、これまでに歩んできた背景を理解するよう努め、患者さんとの信頼関係を築き、その人にとって気持ち良くいられる環境を提供できれば「その人らしく」支援することに繋がるのではないのでしょうか。終末期が近づいている患者さんについて、高野医師は受け持ちスタッフに意見を聞きます。受け持ちスタッフは、話せなくなった患者さんを代弁して思いを伝えます。そして、どうしたらその人が望む最期を過ごせるか、を話し合います。これからも、患者さんが最期の日を迎えるまで「その人らしく」支援していきたいと思つています。



# 日常の一コマ

今月は3病棟の時子さんの一コマです。時子さんは港区虎ノ門で4人兄弟の長女として生まれ、23歳で結婚して浦和へ転居、2人のお子さんに恵まれました。6歳の頃から小唄や三味線を習い、結婚後は数人の生徒さんに教えるほどの腕前だったそうです。また、ご主人が新橋で割烹料理店を経営されていて、そのお店を手伝っていた頃の話を楽しそうに話してくれました。



時子さんの認知症状は5年ほど前から現れ、今ではご主人が施設に入所されていることも理解できていません。毎日「明日主人が迎えに来ますから」「主人に迎えに来るように伝えて下さる？」と繰り返し訴えてきます。その訴えに対して私たちは否定することなく「明日ですね、わかりました」「はい、伝えておきますね」などと返事をしています。時子さんは安心した様子で自室に戻りますが、またすぐに自室から出て来て同じ訴えを繰り返します。夜は何度もこのやり取りをしてから就寝されます。

時子さんが以前に入所されていた施設や病院では、妄想がひどく、大声を上げたり、スタッフへの暴言や暴力があったりしたそうですが、当院入院から5か月が経ち、いまだにそのような行為は見られていません。スタッフがおしぼりをたたむ軽作業をしていると「私もやるわよ」と手伝ってくれますし、暴言・暴力などがあつたとは思えないほど、時子さんは毎日穏やかに過ごされています。

時子さんは先月お誕生日を迎え93歳になりましたが、一人でしっかり歩き、トイレに行き、食事をしています。また、周りの患者さんの話を聞いては、いつも何かアドバイスをなさっています。もともとしっかり者で自尊心の強い時子さんは、会話の中に「私は学があるから」とか「私は高級志向だから」などと良く言っています。内心では「上から目線だなあ(笑)」と思いつつも、時子さんの言うことは本当に勉強になることばかりです。



私は時子さんの言葉や品のある話し方、話す時の笑顔がとても好きです。先日「ねえ時子さん、何でそんなに優しく笑いかけてくれるの？すごく元気が出るよ！」と声をかけてみました。すると時子さんは「笑顔でいるほうが自分にもいいことがあるし、相手だっていい気分になるでしょ。だから昔から笑顔でいるように心がけているのよ。先生にもそう教えられたわ」と微笑みました。とても心に刺さる言葉でした。これからも時子さんの言葉を忘れず、いつも明るく笑顔を絶やさないようにしようと思つています。そして、患者さんに穏やかに過ごして頂けるよう、全力で仕事に取り組んでいきたいと思つています。

3病棟 介護福祉士 竹田 裕美

## 相談室 だより

医療相談員 江原 佳世子

草花が芽吹く春を迎えました。先日お知らせしましたように、当院での面会条件が緩和されています。長期間ご協力をいただきまして、ありがとうございます。談話室でゆつくりと楽しそうに面会されている姿が多く見られるようになり、私たちも嬉しく思っております。

セントノア病院での入院生活はいかがでしょう？当院は病院ですので、日中だけでなく夜間帯や日曜・祝日も医師が常駐しており、必要時にはすぐに診療を受けることができます。また、心通う看護・介護にあたることで、穏やかな毎日が送れるようにサポートさせていただいています。そして病院ではありますが、季節感のある行事やレクリエーションに取り組んでいますので、日常生活の流れや雰囲気は施設（特養や老健など）に近いものがあり、ゆつたりとお過ごしいただけるようになっています。「入院期間を設けていない」ということは、当院の特徴の一つです。これからは皆さんが安心して入院生活を送っていただけるようお手伝いしていけたらと思つています。何かございましたらいつでもお声がけください。

4月は春爛漫の好季節ですね。面会の日時が決まりましたら、お電話にてご連絡ください。お待ちしております。



## いきいき看護・介護

2病棟 介護員

高橋 麻紀



うらかな春の陽気とともに新年度がスタートしました。しかし世界情勢も雲行きが怪しく、いつ終わるか分からない戦争が始まつてすでに1年が経ちます。コロナの感染状況も少しずつ落ち着きつつありますが、まだまだ油断はできません。さて、当院の院庭の桜も見事に満開を迎え、どんよりと暗くなつてくる心を明るく照らしてくれました。先月下旬には桜まつりも実施され、みんなでおしるこを飲んだり、ゲームをしたりして、お花見を楽しみました。コロナ禍で外出が出来ないことが続いていましたが、院内のレクリエーションや日々のお散歩などを通じて、患者さんたちと楽しく過ごし、一日一日を大事にしていきたくと思つています。今できることを一生懸命行い、患者さんとの時間を大切に、笑顔で一緒に過ごしたい。これはスタッフ全員の願いです。患者さんご家族の皆様も、皆さんが幸せで健康に過ごせることを心から祈つています。

